

## No88 インテリアとモテ（モテ部屋の研究）

～男性誌を対象として～

阿部研究室 鎌田弓

### ■背景と目的

「モテ部屋」という言葉を知り、インテリアがモテる為の要素になったのではないかという仮説を立てた。「モテ」に関する書籍は Amazon ブックスで 6410 件ヒットした(2009.12.3 現在)。この中に男性向けインテリア雑誌があったことから、男性が考えるインテリア・モテ部屋を調べることにした。

本研究は男性誌でのインテリアの取り扱い方を調査し、「モテの要素になったのはいつか」「本当にモテるのか」を明らかにし、新たなインテリアの位置づけを考察することを目的とする。

### ■調査対象の選定方法

①男性誌データベース：社団法人日本雑誌協会データベース及び書店取り扱い男性誌より、65誌選出した。この65誌にヒアリング調査を行い、インテリア特集を行っており資料閲覧が可能な5誌を選出した。

②大宅壮一文庫：日本有数の蔵書をもつ雑誌専門図書館大宅文庫データベース<sup>(1)</sup>を用い「モテ部屋」「モテ&インテリア」等をキーワードに検索を行い、9誌を検出した。

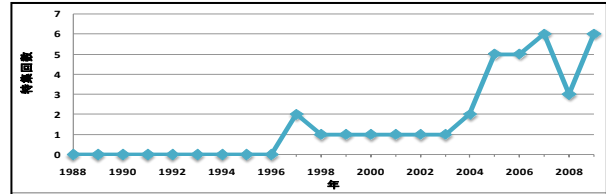
以上の方法により、14誌を調査対象とした。

### ■男性誌におけるインテリア取り扱い時期と内容

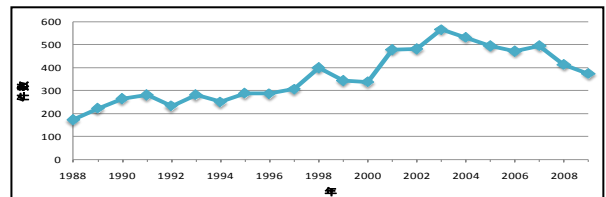
2004年からインテリア特集が増加し始めたことから、男性誌でインテリアが頻繁に取り扱われるようになったのは、2004年以降と推測される【図1】。

さらに、大宅文庫で「インテリア」をキーワードに検索した結果、1988年に比べ2001年から特集回数が倍以上になっており、インテリアの取り扱いが増加傾向にあることが分かった【図2】。

多くの雑誌が部屋紹介を取り扱っており自己表現・自己実現を目的としたものが多かった。



【図1】 調査対象誌のインテリア取り扱い時期

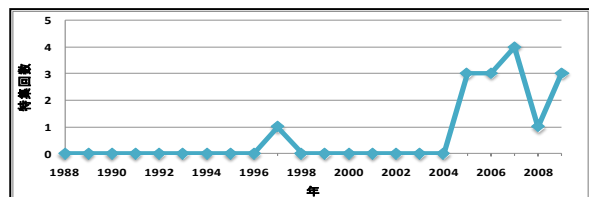


【図2】 大宅文庫「インテリア」ヒット件数

### ■男性誌におけるインテリアとモテの関係

#### モテ目的特集の取り扱い時期【図3】

2005年からモテを目的としたインテリア特集が急激に増加し始めたことが分かった。



【図3】 調査対象誌のモテ目的取り扱い時期

#### モテ目的特集の内容

部屋紹介の他に、女性による部屋評価、風水などがあつた。また「ヤレるモテ部屋」という特集があつたことから、女性に惚れさせること、性行為を意識した部屋作りが存在することが分かった。

#### 女性誌と男性誌の「モテ」の違い

女性は料理・収納など「部屋で何かをする」ことでモテようとしているのに対し、男性は部屋のきれいさ・おしゃれさなど「部屋」自体でモテようとしているということが分かった。

#### 男性のインテリアへの意識

情報誌だけでなくファッション誌で取り扱われるようになったことから、男性自身の満足だけでなく「部屋を人からどう見られるか」を意識しているのではないかと推測される。

## ■男性の部屋に対する女子大生の評価

「男性の部屋」に対する女性の評価を探るため、記入依頼式のアンケート調査を行った。調査対象は本学学生333名とした。内訳は、生活科学部生活環境デザイン学科4年27名、3年49名、2年105名、1年97名、他学部他学科55名である(実施期間:2010年10月28日～11月15日)。

### アンケート回答者の属性

男性をカッコイイと思う要素は何か、という質問では、複数回答の全回答中の25%は同割合で「性格」「見た目」だった。「部屋」と回答した人は3%のみで、部屋は男性をカッコイイと思う要素ではほぼ無いといえる【図4】。

2人きりで男性の部屋に行く関係は「友達」が35%であった。よって、友達の関係でも男性の部屋に行くことは少なくないといえる【図5】。

### 「男性の部屋」に対する意識

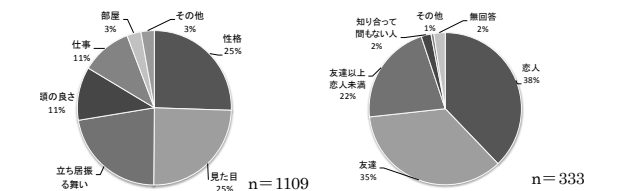
回答者の82%が、部屋が好みであった場合「好感度が上がる」と答えた。部屋をオシャレにすることは、モテの要素として使用する「意味がある」といえる【図6】。

男性の、素敵と思う部屋はどんな部屋か、という質問では、「インテリアにこだわっている」が3位に上がり、インテリアにこだわることは女性から素敵だと思われるということが分かる【図7】。所属・学年別では、生環学生が他学部学生より「インテリアにこだわっている」ことを評価した割合が高く、インテリアに関心のある女性は、インテリアへのこだわりに好感を持つ傾向にあるといえる【図8】。

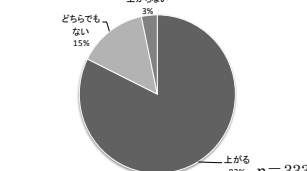
### 「インテリアにこだわりを持つ男性」に対する評価<sup>(2)</sup>

インテリアにこだわる男性に対して、73%が「肯定的」であった。これはインテリアが趣味の一つとして捉えられるのではないかと推測される【図9】。

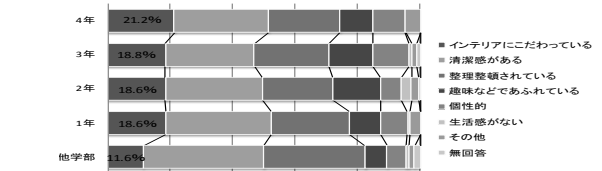
さらにインテリアで好感度を上げようとする男性、惚れさせようとする男性、スムーズに性行為に至ろうとする男性をどう思うか、の質問では段々と否定的割合が増加した【図10, 11, 12】。



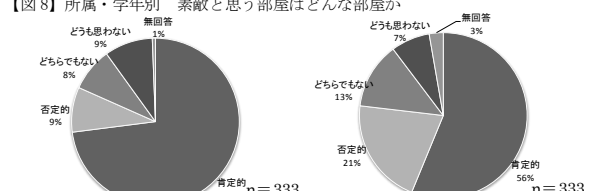
【図4】男性をカッコイイと思う要素は何か



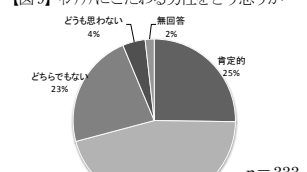
【図6】部屋が好みであったら好感度は上がるか



【図7】素敵と思う部屋はどんな部屋か

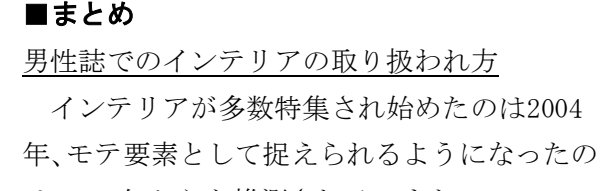


【図8】所属・学年別 素敵と思う部屋はどんな部屋か

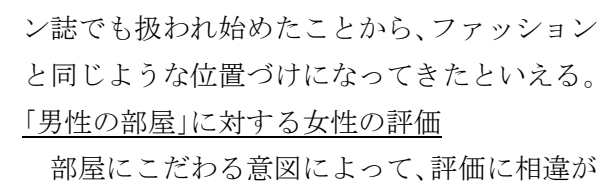


【図9】インテリアにこだわる男性をどう思うか

【図10】インテリアで惚れさせようとする男性をどう思うか



【図11】インテリアで好感度を上げようとする男性をどう思うか



【図12】インテリアでスムーズに性行為に至ろうとする男性をどう思うか

## ■まとめ

### 男性誌でのインテリアの取り扱われ方

インテリアが多数特集され始めたのは2004年、モテ要素として捉えられるようになったのは2005年からと推測される。またファッション誌でも扱われ始めたことから、ファッションと同じような位置づけになってきたといえる。「男性の部屋」に対する女性の評価

部屋にこだわる意図によって、評価に相違があることが分かった。男性の部屋が好みである場合、好感度が上がる女性は82%であり、趣味として下心を感じない程度にインテリアにこだわることはモテる事に繋がるといえ、「部屋のインテリアはモテの要素である」といえる。

### 【注】

- (1) 大宅壮一文庫のデータベースは、1988年1月以降に出版された雑誌の蔵書を検索することが出来るものである。
- (2) 自由記述式設問のため、「肯定的」「否定的」「どちらでもない」「どうも思わない」の4つに分類する。